

特徴生かす県政を

国際貢献や医療・福祉

目 回 2 で 京 東
議 会 オニ

県政推進の指針となる長期ビジョン策定に向け、県外有識者から意見を聞く東京会場二回目の「県政オピニオン会議」が十四日、都内のホテルで開かれた。「国際貢献や医療・福祉分野など、県の特徴を生かし、具体的な施策を盛り込むことが必要」との認識で一致した。

小長啓一・アラビア石油社長、木村治美・共立女子

大教授、伊藤元重・東京大教授、平本一雄・三菱総合研究所人間環境研究センター副センター長、村田幸子・NHK解説委員、作家の吉廣紀代子氏の六人が出席。石井知事らが聞いた。

小長氏は、岡山にAMD(Aアジア医師連絡協議会)の本部があり、医療福祉分野に優れていることから「国際貢献の拠点づくりと医療福祉関連の産業育成

を」と述べ、吉廣氏は「県の少子高齢化に対応するにはゼロ歳児保育の充実が求められる」、木村氏は「医療水準が高いのだから難病専門病院を設ければ」と提言した。

伊藤、平本の両氏はビジョンの掲げる「快適生活県」に触れ、「気候が良く自然が豊かであることを生かすべきだ。米国で先進的な仕事をしている人の中には、

自然の中で生活しながらアイデアを生み出すケースが目立ち、国内でもその傾向が見られる。二十一世紀は質の高い生活のできるころが求められる」と指摘した。

村田氏は「住民が行政に積極的に参加している自治体は活性化している。住民の声をきめ細やかに聞くことが必要」と話した。

県は十月をめどに長期ビジョンの骨格案をまとめた後、再び県政オピニオン会議を開き意見を求め、本年度内にビジョンを策定する方針。